

安城市みらい創造研究所 研究成果報告

3月22日文化センターにおいて、市民や自治体関係者140人を前に、研究成果報告会を開催しました。3人の研究員が1年間取り組んだ研究内容を発表しました。その概要を紹介します。

小学校区を単位とした人口動態・推計に関する研究

担当研究員 神谷晃司

現在までの人口の動きを小学校区ごとにみると、本来は開発を促進すべき市街化区域を主とする学区から子育て世帯が流出し、一方で、開発が抑制される市街化調整区域を主とする学区へと子育て世帯が流入していることが確認されました。

実は、安城市と近隣市との関係でも、住宅地の地価が安い市へと子育て世帯が流出しています。つまり、市内間でも同様に、子育て世帯の居住地選択に、住宅地の地価が影響を与えていると推測されます。↘

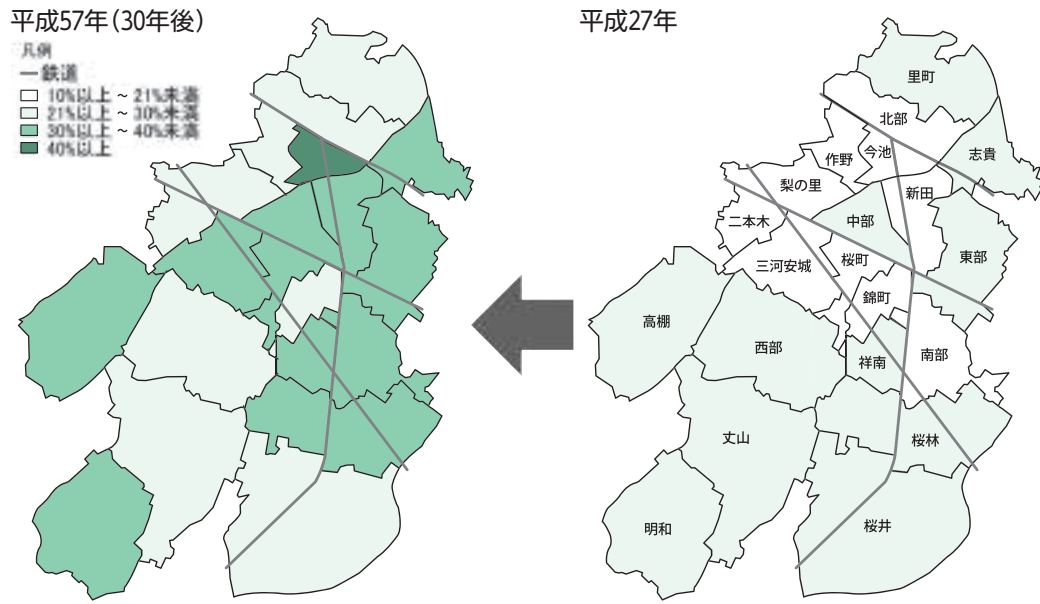


図1：小学校区別の高齢化率の変化

図▶安城市みらい創造研究所 (☎71)2299)

また、現在、65歳以上の高齢者の占める割合(高齢化率)が、超高齢社会といわれる21%を超えている学区は、約半分です。これが、30年後には全ての学区で超高齢社会を迎えます。(※図1)

特に、高齢化が急速に進んでいくのは、主要駅周辺の土地区画整理事業等を行った学区です。人口が一気に流入しながらも、その後は、子育て世代を中心に定住が進まないことが一つの要因となっています。

以上の人口問題の背景には、この地域はどうあるべきか、どういった地域にしたいのかといった役割や位置づけが明確になっていないことがあります。例えば、このままの状態が続くことが望ましいのか、より一層の規制や人口誘導が必要か等、今一度、各地域の役割や位置づけを、行政だけでなく、そこに住む人たちも巻き込んで、未来に向けて議論していく必要があります。

みらい創造研究所とは

将来においても持続可能で魅力ある行政運営を行うため、中長期的視点により中立的な立場で行政課題を調査分析する組織として、市役所内部に設置された自治体シンクタンクです。

「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できる」ための政策提言を行うこと」を研究所の使命としています。

研究の詳細は

研究の本編及び研究所の活動は、平成27年度安城市みらい創造研究所活動報告書「みらい創造」に掲載。また、市公式ウェブサイト、市政情報コーナーでも閲覧できます。

※市政情報コーナーは6月から閲覧可。

新幹線三河安城駅の利用実態に関する研究

担当研究員 伴野裕樹

本研究では、新幹線三河安城駅の乗降人数や利用状況(居住地や行先、行先での目的等)の実態を明らかにし、リニア中央新幹線(以下、リニアという)開業を見据

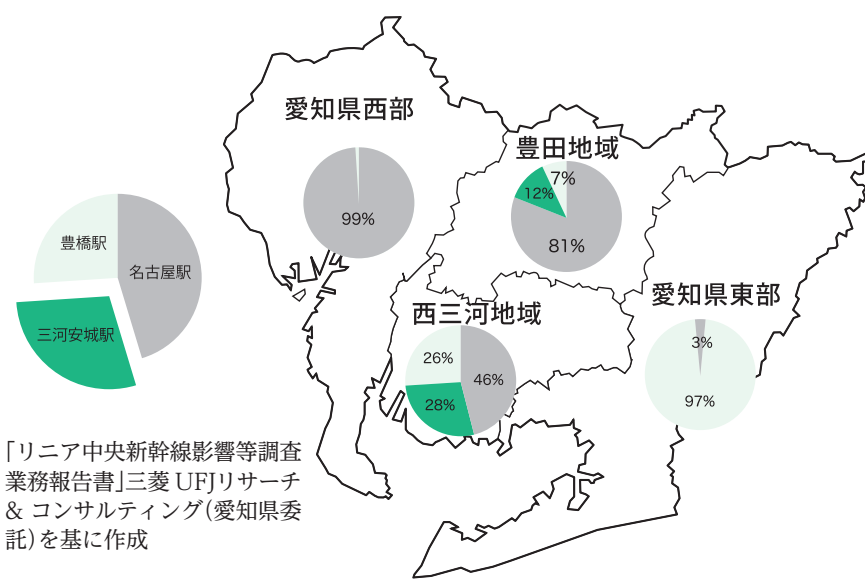


図2：愛知県内から東京方面への移動における新幹線駅の地域別利用率

えた新幹線三河安城駅を活かした地域づくりへの課題と取組について検討しました。

利用実態の把握のために実施した乗降者数調査、利用状況調査から次の二点が課題として挙げられました。

①これまでの三河安城駅周辺のまちの発展が「在来線」三河安城駅の乗降人数の増加に結び付いている一方で、「新幹線」三河安城駅の乗降人数の増加には繋がっていない。

②リニア開業に伴い、利便性が大きく高まることが予想される名古屋駅や豊橋駅へ新幹線利用者のさらなる分散が懸念される。(※図2)

これらの課題に対する取組を進めていくにあたっては、新幹線三河安城駅が立地する安城市のみならず、利用圏域である西三河地域の自治体がそれぞれの役割を果たしていくとともに連携していくことが重要であると考えられます。

そこで、安城市の取組として「三河安城駅周辺におけるビジネス交流の拡大」「西三河地域の自治体が連携した取組として「西三河の観光資源を活かした魅力の創出・発信」を提案しました。

安城市の未来を考える

人口誘導に依拠した住宅政策に関する研究

専門研究員 立石祥子

日本全体で人口が減少している中、安城市では、市内に広く人が居住しており、市街化区域・市街化調整区域の区別なく人口・世帯が増減しています。こうした現状は、安城市において、人口密度を考慮に入れた戦略的な住宅政策の展開がなされてこなかったことに起因しています。

本研究では、安城市の住宅政策に、福祉として、あるいは建築物としての住宅提供という側面だけ

でなく、その建物のある地域をよりよくしていくことを目指す、住環境の向上に関する施策と、人口密度に関する視点を導入するよう提案しています。

人口密度から住宅政策を考えてみると、地域別構想については、安城市内の一部高密度地域、大部分を占める低密度地域、市境の地域に分けた地域別構想の戦略が必要です。

とりわけ、高密度地域である新安城駅・安城駅・三河安城駅周辺を含むトライアングル地帯を中心として積極的な人口誘導していくことは、未来に向けて安城市が存続していくための現実的な戦略といえるでしょう。(※図3)

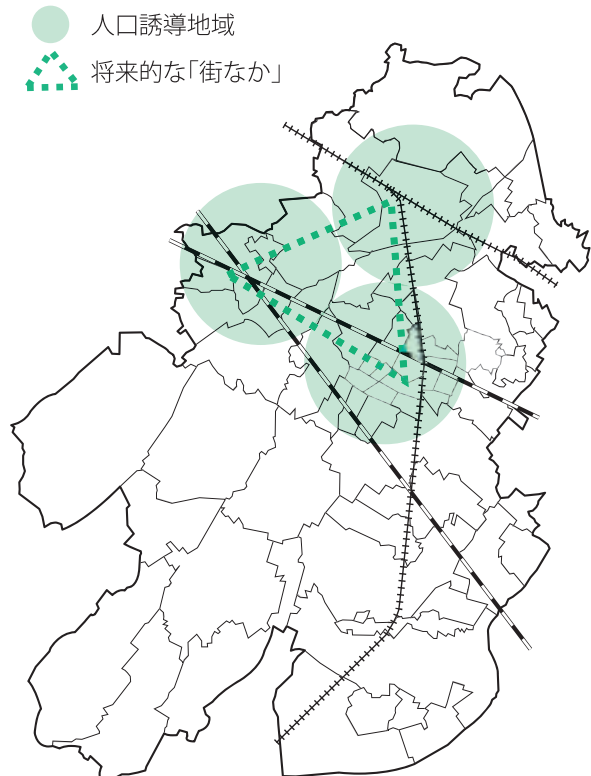


図3：安城市における将来的な人口誘導地域と「街なか」地域